

第7回 ふるさと高原山を愛する集い 実施報告書



開催日：令和元年9月29日(日)

開催場所：尚仁沢はーとらんど

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会

祝「山の日」制定 ふるさと高原山を愛する集い

～ふるさとを思い、高原山麓での保全活動をみんなで考えよう～

期日：令和元年9月29日（日）

場所：尚仁沢はーとらんど

主催：ふるさと高原山を愛する集い実行委員会

共催：塩谷町

後援：一般財団法人全国山の日協議会、塩那森林管理署、矢板市、
日光市、那須塩原市、くまの木里山応援団、
宮まちづくりネットワーク



しおやの高原山 10 景
「高原 4 連峰」(久保井久夫さん撮影)

“ふるさと高原山宣言”

山と川と海は、人が利用するにあたって適切な保全管理があってこそ、はじめて良好な環境が得られるといわれています。“高原山”は栃木県塩谷町の基本構想にシンボルとうたわれているように、住民にとって心の支えであるとともに、水やおいしい空気、大地の恵みなどを供給しています。私たちには“高原山”の素晴らしい自然を次世代に継承していく責務があります。

当会名誉顧問の故船村徹先生は「山の日」の制定にご尽力され、2016年から8月11日が国民の祝日「山の日」となりました。「山の日」の意義は『山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する』とされています。

本日ご参加いただいた皆様方とともに、ふるさと“高原山”への思いと「山の日」の意義を共有し、高原山麓での保全活動を展開し続けていくことを宣言します。

令和元年9月29日

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会



プログラム

13:30～ 開会、あいさつ	見形和久会長 全国山の日協議会、来賓代表
13:40～ オープニング	「故郷の山が見える」等 ケーナ演奏 青木修司委員
14:00～ 高原山麓サミット	高原山麓での保全活動をみんなで考えよう コーディネーター 見形和久会長 パネラー 齋藤淳一郎さん（矢板市長） 山口孝さん（塩那森林管理署長） 坂本安男さん（「日光の木」利用総合戦略委員会アドバイザー） コメンテーター 市川貴大事務局長
15:00～ ふるさと高原山宣言	井澤晴雄委員
15:10～ 講話	「私と高原山」 谷畑方夫副会長
15:30 閉会および苗木配布	見形和久会長 ※苗木(アジサイ、ハナモモ)の配布 塩谷町緑化推進委員会 水野雅章委員 各委員
司会	
受付等運営	

故郷の山が見える

木下龍太郎 作詞

船村徹 作曲 丸山雅仁 編曲

鳥羽一郎 唄

一 いちど東京へ 行くといいながら

いつも口だけで ひとり野良仕事

老けたおふくろの やせたあの肩を

さすってあげたい

峠 越えれば 俺のふるさと

山が見えてくる

♪ ふるさとの山に向かいて 言うことなし

ふるさとの山は ありがたきかな（石川啄木詩集）

二 けんかしたけれど 何故か気があって

どこへ行くんだと 泣いてくれたやつ

月の縁側で 馬鹿を言いながら

ふたりで呑みたい

幼なじみと共に遊んだ

山が見えてくる

三 村を出るときは ひとり踏切で

汽車が消えるまで 背伸びしていた娘

町へ嫁に行き 母となつたいま

しあわせだろうか

恋を失くした 遠いあの日の

山が見えてくる

参加者一人一人がボランティア！ 準備・片付け等ご協力をお願いします！

一般財団法人全国山の日協議会 谷垣禎一会長メッセージ

栃木県塩谷町のふるさと高原山を愛する集い実行委員会の皆様の並々ならぬご尽力により、今年もこのイベントが盛大に開催され、併せて「山の日」の周知活動を行っていただけますことはとてもありがたく、心よりお礼申し上げます。

特に本年の開催にあたっては、塩谷町の皆様はもとより、塩那森林管理署、矢板市、那須塩原市、日光市、くまの木里山応援団、宮まちづくりネットワークの皆様にも大きなお力添えをいただき、高原山周辺の市町の連携のもと、ここ尚仁沢はとらんどにて、高原山麓サミット、ふるさと高原山宣言、そして名水百選「尚仁沢湧水」を育むイヌブナ自然林のハイキングの実施など、充実したプログラムにより、ふるさとを想う心、保全活動についてみんなで考える機会を醸成されますことに、心より敬意を評します。

さて、2017年8月11日国民の祝日「山の日」には、御県那須町において第2回「山の日」記念全国大会を盛大に開催していただきました。その際には、実行委員をお務め下さった塩谷町の見形町長はじめ地域社会の皆様のご尽力に改めまして感謝申し上げます。本年は山梨県甲府市において、地域の皆様のご協力のもと、第4回「山の日」記念全国大会 Yamanashi を滞りなく開催していただくことが出来ました。また来年は大分県竹田市および九重町を会場とした開催が決定しており、現在、大分県生活環境部自然保護推進室をはじめ関連市町村の皆様とともに、開催に向けての準備を取りまとめているところでございます。

こうして国民の祝日「山の日」の記念式典を毎年開催させていただくことができますのは、この「山の日」が徐々に国民の皆様にも認知をしていただいている証かと存じております。そしてそれは、毎年開催なさっている「ふるさと高原山を愛する集い」をはじめとした、全国各地の皆さんの、地域社会による多くの催事開催の原動力とも言える「ふるさとを想い敬う心」に支えられたご尽力の賜物であろうと思います。「ふるさとを想い敬う心」、それはまさにこの塩谷町ご出身の故・船村徹先生の「山は心のふるさと」という言葉、そして山の日の趣旨である「山に親しみ機会を得て 山の恩恵に感謝する」にも通じていると思います。

これからも地域社会の皆様とともに、「山の日」の意義のみならず、地域社会の活性化、森林と水資源の保全、登山の安全と防災、たくしい子供たちの育成、その他多くの課題解決に向けてご意見を頂戴し、情報の共有をいたし、ご一緒にこの活動をさらに盛り上げていただくためにも、この「ふるさと高原山を愛する集い」が末永く継続して開催されることを心より願っております。

令和元年9月29日

イヌブナ自然林（天然記念物指定）

天然記念物に指定された高原山のイヌブナ自然林は下流域の高原山湧水群を守るための運動として、塩谷町の有志によって伐採の危機を免れ、この地域を代表する豊かな自然林として森林構造を維持している。

宇都宮大学名誉教授 谷本丈夫氏執筆





市町村合併協議破綻後の矢板市・塩谷町有志によるワークショップ

○ふれあい交流資源発掘事業(2006～2007)
+ 塩谷農業振興事務所プロジェクト「高原山麓の豊かな自然と共生する魅力ある中山間地域の創生」
→ 矢板市、塩谷町から推薦された委員による地域資源発掘

矢板市・塩谷町の共通で示された地域資源

“高原山”，“水”

ヤマツツジ，里山，ホタル・・・

地域資源Top3
矢板市：①高原山，②ツツジ，③りんご
塩谷町：①尚仁沢湧水，②鬼怒・大谷川の出合う里，③イヌブナ
関係機関：①湧水，②船生用水，③りんご

第1回高原山麓サミット（2007年3月10日）

○開催趣旨
「塩谷地方における中山間地域は矢板市、塩谷町に広がる**自然豊かな高原山麓の大地**を有しています。近年、過疎化や高齢化による耕作放棄地の増加や集落機能の低下が見られるようになり、これに対する**地域住民の主体的な取組みが必要**であります。そこで、**地域総力による地域資源の発掘及び保持につとめるとともに、これを有効に活用**した都市農村交流を促進し、魅力ある中山間地域づくりを実践することを目的として、サミットを開催します。なお、本年度高原山麓の魅力を再発見するために、矢板市と塩谷町の有志により作新学院大学橋立教授のご指導の下、ワークショップを行ってきました。このワークショップの成果を公開するとともに、参加者からもご意見を賜りながら、みなさまとともに高原山麓の更なる振興に努めていこうと考えております。」

※ 現在では関係人口を巻き込むことが必要

高原山麓サミット（第1～5回）

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
日程	平成19年(2007年) 3月10日(土)	平成19年(2007年) 12月1日(土)	平成21年(2009年) 3月7日(土)	平成22年(2010年) 3月6日(土)	平成23年(2011年) 3月5日(土)
時間	9:00～13:40	9:00～14:00	13:00～16:30	9:30～15:20	9:20～16:00
場所	塩谷町 旧熊ノ木小学校体育館	矢板市 長井小学校体育館	塩谷町 旧熊ノ木小学校体育館	矢板市 文化会館小ホール	塩谷町 自然体農村センター 会議室
参加費	500円	500円	無料	無料 (ランチ希望者500円)	無料 (昼食希望者1000円)
内容	講演、研究報告、公開サミット(矢板市・塩谷町住民による提案(6名))、会場からの提案、全体交流会	講演、地域活動報告(矢板市・塩谷町住民による提案(4名))、意見交換、全体交流会、郷土技術の展示	講演、活動報告、地域活動団体同士の情報交換・交流会(26団体)	活動報告、講演、地域活動報告(1団体と団体間連携2事例)、地域活動団体同士の情報交換・交流会(30団体)	講演、意見交流交流会
主催	栃木県塩谷農業振興事務所(後援: 栃木県塩谷地方農業振興協議会)	高原山麓活性化委員会・栃木県塩谷農業振興事務所	高原山麓活性化委員会・栃木県塩谷農業振興事務所	高原山麓活性化委員会(後援: 矢板市、塩谷町、栃木県塩谷農業振興事務所)	高原山麓活性化委員会(後援: 矢板市、塩谷町、栃木県塩谷南郡農業振興事務所)
対象者	公開	公開	公開	公開(参加団体中心)	限定(参加団体の一部)

ふるさと高原山を愛する集い

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
日程	平成25(2013)年 5月26日(日)	平成26(2014)年 10月26日(日)	平成27(2015)年 10月25日(日)	平成28(2016) 10月30日(日)	平成29(2017)年 10月29日(日)	平成30(2018)年 10月8日(祝)
時間	13:00～16:15	11:45～14:45	10:30～14:00	11:00～14:00	11:00～13:00	11:00～14:00
場所	日々輝学園体技学習館(旧塩谷高等学校)体育館	尚仁沢はーとらんど	玉生運動広場(旧玉生中学校グラウンド)	玉生運動広場(旧玉生中学校グラウンド)	玉生運動広場(旧玉生中学校グラウンド)	玉生運動広場(旧玉生中学校グラウンド)
参加費	無料	無料	パーベキュー1セット 1万円/入場無料	パーベキュー1セット 1万円/入場無料	パーベキュー1セット 1万円/入場無料	パーベキュー1セット 1万円/入場無料
内容	船村徹先生講演、スベシヤル対談、特報展、先生講演、お楽しみ大会、高原山へのメッセージ、しやらの高原山10景発表	先生講演、お楽しみ大会、クイズ大会、お楽しみ大会、クイズ大会、お楽しみ大会、クイズ大会	えひめ産一さんショー、スペシャルトーク、情報提供、パーベキュー、お楽しみ大会、クイズ大会、お楽しみ大会、クイズ大会	スペシャルステージ(走野介さん、えひめ産一さん)、講演、雨天によりパーベキュー、お楽しみ大会、クイズ大会、お楽しみ大会、クイズ大会	スペシャルステージ(走野介さん、えひめ産一さん)、講演、雨天によりパーベキュー、お楽しみ大会、クイズ大会、お楽しみ大会、クイズ大会	船村徹先生道徳スペシャルステージ(えひめ産一さん、とちおめさん)、情報提供、パーベキュー、お楽しみ大会、クイズ大会、お楽しみ大会、クイズ大会
主催	ふるさと高原山を愛する集い実行委員会、塩谷町	ふるさと高原山を愛する集い実行委員会、塩谷町	ふるさと高原山を愛する集い実行委員会、塩谷町	ふるさと高原山を愛する集い実行委員会(共催: 塩谷町)	ふるさと高原山を愛する集い実行委員会(共催: 塩谷町)	ふるさと高原山を愛する集い実行委員会(共催: 塩谷町)
参加者	650人	300人	700人(99セット)	600人(89セット)	(83セット)	350人(67.5セット)

今年の開催意義

主題：「**高原山麓の保全活動をどう継続・発展しているのか？**」

総論：「**地域資源を活用し、収益を生み出しつつ、その収益の一部を地域資源の保全に充ていくこと**」≡持続的発展(内発的発展)」

各論：行政、民間、関係人口等との**共創**(パートナーシップの変換)
広域連携
既存施設の有効活用による、活動拠点の支援
森林環境税の公募事業等の展開
高原山山開きの新たな展開

無理なくできることからコツコツと・・・

ふるさと高原山を愛する集い ～ふるさとを思い、高原山麓での保全活動をみんなで考えよう～

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会 市川 貴大

第7回ふるさと高原山を愛する集いが令和元年9月29日（日）に尚仁沢は一とらんどにて開催されました。第1回目は平成25年5月26日に日々輝学園体験学習館（旧塩谷高等学校）体育館（650名参加）、第2回目は平成26年10月26日に尚仁沢は一とらんど（300名参加）、第3回目は平成27年10月25日に玉生運動広場（700名参加）、第4回目は平成28年10月30日に玉生運動広場（600名参加）、第5回目は平成29年10月29日に玉生運動広場（台風のため食材配布のみ）、第6回目は平成30年10月8日（祝）に玉生運動広場（350名参加）にて開催しました。今回は尚仁沢は一とらんどにて実施しましたので報告いたします。

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会による事前打ち合わせ

「山の日」を国民の祝日にしようということでふるさと高原山を愛する集いを開催し、祝日後は「山の日」のお祝いと意義の周知を中心に開催してきました。しかしながら、国民の祝日「山の日」が周知されてきた今日、ふるさと高原山を愛する集い実行委員会として、今後の目標を有する必要があるという意見が出てきました。

様々なイベント案を検討したのですが、実行委員会として意見が一致せず、検討を重ねたところ、以前実施していた1市3町による高原山山開きのようなイベントを少なくとも塩谷町側は継続展開していこうという意見で一致しました。そこで、以前実施していた1市3町による高原山山開きの再開を将来的に模索すべく、高原山麓での環境保全活動について公開で議論する場を設定することにしました。



高原山山開き

これまで3班体制で実施してきましたが、最後の班が釈迦ヶ岳山頂に合流するのが大変との声がありましたので、2班体制で実施しました。

1班は市川貴大が隊長で7:00発、2班は青木修司が隊長で7:40発です。38名が釈迦ヶ岳山頂を目指しました。釈迦ヶ岳山頂では、見形和久会長と塩那森林管理署の山口署長にあいさつをいただき、記念撮影を行いました。1名は残念ながら途



中下山されましたが、冷涼な気候で気持ちよく歩くことができました。参加者には尚仁沢は一とらんどで使える地域通貨「でれ」が配布され、191枚が使用されました（205枚配布、利用率93%）。

表 ふるさと高原山を愛する集い実行委員会による活動実績

年月日	参加人数	場所	内容
2019年2月17日	4名	星ふる学校「くまの木」	・里山学講義を共催
2019年5月11日	6名	は一とらんど 駐車場	・は一とらんど臨時駐車場の草刈り
2019年5月18日	40名	高原山	・高原山山開き ・2班体制で実施
2019年6月9日	14名	星ふる学校「くまの木」	・ふるさと高原山を愛する集いについて（見直し）
2019年7月6日	11名	星ふる学校「くまの木」	・は一とらんどの活用を軸に進めることを確認
2019年7月14日	6名	塩谷町役場1F	・会長急遽不在のため現状の確認を実施
2019年7月27日	6名	上寺島 活性化施設	・バーベキュー、ハイキング、集い打合せ
2019年8月16日	3名	尚仁沢 是とらんど	・名水鑑賞広場付近の草刈り ・バーベキュー受付準備
2019年8月17, 18, 24, 25日	各3~4名	尚仁沢 是とらんど	・バーベキュー実施 ・当日申込者はいなかった
2019年9月1日	11名	上寺島 活性化施設	・集い当日の役割分担 ・次期副会長の選出
2019年9月28日	6名 12名	イヌブナ自然林 尚仁沢 是とらんど2F	・守子神社登山口~イヌブナ自然林までのササ刈り ・ふるさと高原山を愛する集いの準備
2019年9月29日	30名 80名	イヌブナ自然林 尚仁沢 是とらんど2F	・イヌブナ自然林ハイキング ・ふるさと高原山を愛する集いの実施
2019年11月9日, 12月11日	各3名	高原山	・高原山登山道のササ刈り

県庁15階での展示

栃木県自然環境課が6月17~28日、県庁15階にてふるさと高原山を愛する集い実行委員会の活動等をPRして下さることになり、谷畑方夫副会長をはじめとする船村徹ふるさと会が作成された作品（模造紙）と高原山の写真を期間中掲載いただきました。



今年のふるさと高原山を愛する集いの検討

実は昨年から、企業との連携によりバーベキュー大会等を実施しようと様々な形でアプローチをかけており、具体化できるのではと期待をしていましたが、残念ながら企業からの具体的な動きが得られませんでした。このため今年は収益をともなう活動を展開することが厳しいのではという見解になりました。

6月9日の打合せでは設立後はじめて意見が紛糾しまとまらず、事務局案は否決されました。このため、委員に今年実施したいことを事前に検討していただき、7月6日に解散も辞さない覚悟で打合せを実施しました。すると、高原山山開きや写真サークルあそぼ有志、船村徹ふるさと会などのコアメンバーが集まってくださり、今年は尚仁沢は一とらんどに焦点をあて、企画を試行してみようということで意見が一致し、活動を継続することにしました。



NHK「小さな旅」 いがぐりと昆虫少年の夏～栃木県・塩谷町～

2019年7月21日、NHK「小さな旅」にて「いがぐりと昆虫少年の夏～栃木県・塩谷町～」が放映されました。ふるさと高原山を愛する集い実行委員会とくまの木里山応援団は高原山麓での環境保全活動が評価され、収録いただきました。特に、約20年前塩谷町側の高原山登山道がわからないくらいになっていたため、登山道を再び整備された青木修司次期副会長や、しそ栽培と尚仁沢湧水で仕込んだしそジュースを作られている谷畑方夫副会長の活動などが採用になりました。



しそジュースの製造

株式会社トヨタさんの食品製造施設にて、尚仁沢湧水と谷畑方夫副会長および市川貴大の栽培したシソを使って、オリジナルの「しそジュース」(500mlビン)を製造しました。摘み取りから製造まで取組みましたが、特に製造は暑くてなかなか大変でした。良い経験をさせていただき、お忙しい中、無理やり予定を組んでくれた株式会社トヨタさんに感謝いたします。



は一とらんど de バーベキューの事前準備

今回は昨年バーベキュー参加者のみの周知とし、実際に尚仁沢は一とらんどにお越しのお客様がバーベキューに関心があるのかどうかを調べるために開催することにしました。塩谷町役場から1Fの倉庫の場所をお借りし受付の準備をしました。さて、会場の名水鑑賞広場はというと、草ぼうぼうで歩きたくないくらいのレベルでした。しかもクズの



つるなどもはびこっていて、公園の管理状況に閉口しました。そして、青木修司次期副会長と市川で、できる範囲内で草刈り&つる切りを行いました。

はーとらんど de バーベキュー

「はーとらんど de バーベキュー」が令和元年8月17、18、24、25日に尚仁沢はーとらんどの名水鑑賞広場にて開催されました。今回は事前予約制とし、事務局分含めて3、5、5、3、3の計14、5セットの申込をいただきました。

当初は尚仁沢はーとらんどの受付にて、備品の貸し出しスタイルにしましたが、不評だったため、事前に名水鑑賞広場にバーベキューコンロとテーブル&イスセットをセッティングしたところ好評となりました。

食材については、当日飛び込み参加を期待しましたが、現れず、バーベキューコンロ購入者もいませんでした。現状ではバーベキューに関心のある来客は少ないようです。また、名水鑑賞広場の草刈り等管理不十分なことと、一般利用者がほとんどいないなど、予想以上に尚仁沢はーとらんど全体の一般利用者が少ないことが浮き彫りになりました。

一方、名水鑑賞広場の木陰は予想以上に涼しく好評でした。尚仁沢湧水が飲めるのも良いところです。25日は子供さんやお孫さんか来てくださり、楽しんでいました。また、仲間同士の交流の場としてのご利用もありました。

「昔はダムが水面が見えたが、いまは草ぼうぼう」、「楽しむ空間がたりない」、「8月は暑く、雷雨もある」、「実施日は分散しないほうがいい」、「音楽はあった方がいい」、「もっと賑やかな方がいい」など、利用者から貴重なご意見をいただきました。

バーベキューについては、子供やお孫さんが喜ぶことや、人々との交流の場にも活用できることがわかり、無理をしない範囲内での実施はありではないかと感じました。



イヌブナ自然林ハイキングの下刈りとふるさと高原山を愛する集い前日の準備

「イヌブナ自然林ハイキングの講師とふるさと高原山を愛する集いのコメンテーターに当会顧問の谷本丈夫宇都宮大学名誉教授にお願いしていましたが、急遽当日の参加が困難との連絡があり、一時期慌てふためきました。イヌブナ自然林ハイキングについては、宇都宮大学の久保達弘教授のご推薦で、宇都宮大学大学院の柴野達彦さんをお願いす



ることになりました。

柴野さんの研究室の先輩にあたる吉田弘一さんがハイキングの準備から参加して下さることになり、9月28日の午前中、倭文廣隊長を含め6名でハイキングコースのササ刈りをしました。

午後は翌日のふるさと高原山を愛する集いの準備をしました。パイプ椅子や必要備品等を2Fにあげるのは予想より大変でしたが、委員の皆さんのおかげでスムーズに準備ができました。



イヌブナ自然林ハイキング

尚仁沢湧水の上流部に位置する国の天然記念物である「イヌブナ自然林」を観察するために、9月29日（日）、守子神社登山口の手前を起点にハイキングを開催しました。今回は30名が参加して下さり、塩那森林管理署の山口孝署長による国有林の話と宇都宮大学大学院の柴野達彦さんによるブナ・イヌブナの話をしていただきました。柴野さんは樹木の違いの見極め方について、実物を通して丁寧に説明して下さり、中山信子委員から、「声が遠くまで聞こえてわかりやすかったので、次回も是非」



とのコメントをいただきました。

高原山登山道のササ刈り

今年の秋の週末は天気が悪く何度も順延をしました。11月9日（土）には青木修司さん、柿沼俊範さんと市川の3名で、西平岳登山口から西平岳と中岳の間までササ刈りをしました。この日は台風19号の林道被害で、登山口まで往復歩いたことなどで、釈迦ヶ岳まで行けませんでした。

つづいて予定日が悪天候のため、12月11日（水）に青木修司さん、井澤晴雄さん、柿沼俊範さんと市川の4名で前山登山口から釈迦ヶ岳を目指しましたが、今度は市川の刈払機の不調でトリドの池止まりで引き返しました。残りの部分は来年実施する予定です。



ふるさと高原山を愛する集い

受付は杉山太郎さんと栗田春奈さんをお願いしました。イヌブナ自然林ハイキングはほぼ予定通りに終了しましたので、準備に合流しました。

尚仁沢は一とらんどで開催すると以前から参加者が減少する傾向がみられましたが、一般参加者が結構来てくださいましたので、用意したパイプ椅子と座敷席が程よく埋り、約80名にお集まりいただきました。



開会あいさつ

今年の司会是水野雅章委員です。今年のふるさと高原山を愛する集いのテーマは「高原山麓での保全活動をみんなで考えよう」ということで、2007年から2011年まで高原山麓活性化委員会の中核的人物であった水野雅章さんこそが司会に最適とのことで、お受けいただきました。集い開催中、始終和やかな進行をいただきました。



ふるさと高原山を愛する集い実行委員会の見形和久会長から開会あいさつを行いました。『故船村徹先生は「高原山は『山の日』発祥の地である」とおっしゃっておられた。今日の集いで出た話を具現化していくにあたり、塩谷町だけではできる話ではなく、どうしたら実現できるのかみんなで考えていこうと思う』と述べられました。



来賓代表として、矢板市の斎藤淳一郎市長から、『玉生に近い倉掛出身で

あり、ふるさとの山「高原山」を愛する想いは皆さんと変わらない。これからの地方創生のポイントとして、高原山麓に広がる豊富な森林資源または緑であり、国、県、塩谷町の皆さんとも力を合わせて取組んでいきたい』と述べられました。

谷垣禎一会長からのメッセージ

今年も全国山の日協議会からご後援を賜り、会場にはお父様が塩谷町船生地区ご出身の手塚友恵事務局長にお越しいただき、全国山の日協議会の谷垣禎一会長のメッセージについて『「ふるさとを思い敬う心」、それはまさに塩谷町出身の故船村徹先生の「山は心のふるさと」という言葉、そして山の趣旨である「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」にも通じており、「ふるさと高原山を愛する集い」が末永く継続して開催されることを心より願っています』と代読いただきました。



オープニング

青木修司次期副会長は以前から、ケーナ奏者 Renさんに師事されておられ、たまたま本人から「集いにケーナなんてどうだろう？」というお話を伺ったことがきっかけでご披露いただくことにしました。本当はギターの伴奏がつく予定でしたが、今回はピンでやっていただくことにしました。我々のテーマソング「故郷の山が見える」と「別れの一本杉」を披露いただきました。



高原山麓サミット「高原山麓の保全活動をみんなで考えよう」

コーディネーターに見形和久会長、パネラーに齋藤淳一郎市長、山口孝署長（林野庁塩那森林管理事務所）、坂本安男代表（「日光の木」利用総合戦略委員会アドバイザー、宮まちづくりネットワーク代表）、コメンテーターに市川貴大事務局長として、「高原山麓の保全活動をみんなで考えよう」をテーマに会場全体で議論を展開しました。

最初に、市川貴大事務局長から、これまでの活動の概要を説明したのち、高原山麓の保全活動については、行政や民間、関係人口等との「共創」や広域連携などが必要であることを指摘しました。



齋藤淳一郎市長からは、「国や県の協力の下高原山麓の森林資源をフル活用していくために、①国の林業成長産業化地域創出モデル事業に指定され、今後塩谷町とどうタイアップしていけるか、②国の地方創生推進交付金の地域間連携で矢板市と塩谷町で一緒にやっけていけないかと考えています」と述べられました。山口孝署長からは、「高原山の大部分が国有林であり、ブナやイヌブナの森林は保護林として維持していくこととしています。また、八方ヶ原では矢板市と連携してレクリエーションの森として開放しています。一方、植栽したスギやヒノキ林では伐期を迎えています。地元の方がどうしていきたいのかを受け止め、実現できるようお手伝いしていきたい」と述べられました。会場から、矢板森林管理事務所の大栗英行所長が「高原山は県有林も多く、特に県民の森では広く県民に活用いただいている。皆さんのために森林資源を活用していくのかについて、ご意見をいただきながら考えていきたい」と述べられました。見形和久会長から「町有林は約 260ha あるが、植栽から約 60 年が経過し伐期を迎えています。宇都宮大学演習林も町内に 520ha あり、国県含めて、地域資源の活かしたかを検討していきたい」とまとめられました。

つづいて、坂本安男代表から「①地域観光資源に高原山がエントリーされていないので、エントリーすべきだ、②塩那の木材についても地域観光資源にエントリーされていないのでエントリーすべきだ、③民間はメリットがあれば投資するわけで、今後のまちづくりに民間の力が必要だ」と述べられました。齋藤淳一郎市長からは「おしらじの滝が注目され始め、県民の森も 3 社による指定管理者による管理になってから入込客数が増加していること、矢板、塩谷だけでは伸びてはいかず、市町域を超えた周遊できる仕組みづくりに努力しなければならない」と述べられました。山口孝署長からは「伐採する森林と伐採しない森林があります。伐採しない森林には人をどう呼び込むのが課題です。おしらじの滝など知名度があがっており、人を呼び込む資源はあります」と述べられました。見形和久会長からは「観光は町限定では難しい。矢板には様々な観光資源があり、広域で楽しんでもらえるようなコースを考えていく必要があります」とまとめられました。



市町域を超えた周遊できる仕組みづくりに努力しなければならない」と述べられました。山口孝署長からは「伐採する森林と伐採しない森林があります。伐採しない森林には人をどう呼び込むのが課題です。おしらじの滝など知名度があがっており、人を呼び込む資源はあります」と述べられました。見形和久会長からは「観光は町限定では難しい。矢板には様々な観光資源があり、広域で楽しんでもらえるようなコースを考えていく必要があります」とまとめられました。

坂本安男代表から、「尚仁沢は一とらんの売店ではペットボトル 2L の空容器が 108 円で売られていたが、スーパーでは天然水が入ってもっと安いのではないか。一方、尚仁沢湧水は無料である。無料はおかしい。地域のために例えば、業務用製氷機を導入してイベントで販売するなど、地域のためにお金を落とす仕組みづくりが重要だ。また、例えばバーチャルな高原山案内も情報をいただければ映像コンテンツを作成可能です。今日配布したやまもりマップは鳥観図となっていて、観光と木の PR となっています。それぞれの組織体の経営資源をミキシングしていく仕組みが大切だ」と追加で述べられました。見形和久会長からは『高原山は「ふるさと」だが、登ったことがないとそうは思わないだろう。子供のうちに登ってもらう機会を作ることも必要ではないかと思っています。また、以前は 1 市 3 町で高原山山開きを開催していた経緯があり、工夫をしてまずは矢板市と連携協力できればと思っています』と追加で述べられました。



会場から質問等をお受けしたところ、那須塩原市在住の古田さんから、「地域資源の整理が必要と感じました。事業関連を検討する場があるのか」との問いに対して、齋藤淳一郎市長は「場はないが、各地で環境保全団体が活動展開されており、一堂に会し、一緒にしていくといったことはそんなに難しくないと考えています」と回答されました。また、宇都宮でのホテル業の木村さんからは、『ふるさと高原山である「高原山」はすばらしいので、是非一人一人広げていってほしい。郷土愛をもって、高原山を活用していきましょう』との前向きな意見をいただきました。

ふるさと高原山宣言

今年実行委員で高原山登山道の整備や高原山山開き等のボランティアに積極的な井澤晴雄委員に、「ふるさと高原山宣言」を読み上げていただきました。宣言にもあるように、「ふるさと“高原山”への思いと「山の日」の意義を共有し、高原山麓での保全活動を展開し続けていくことが大切だと改めて来場者とともに認識を新たにしました。



谷畑方夫副会長講話「私と高原山」

谷畑方夫副会長には、これまでふるさと高原山を愛する集い実行委員会の立上げから今日まで打合せやボランティアなどほとんどといっていいほど参画いただきました。ただ、先生も御年 87 歳で、副会長を更新に譲りたいとの申し出をいただき、講話の機会を設

けさせていただきました。

『船生生まれで、当会名誉顧問だった故船村徹先生とは同級生で、小学校時代一緒に遊ばせてもらいました。当時は兵隊ごっこを森の中で遊びながら、「高原山に一度登ってみたいなあ」と思っていました。小学校5年生の時、川村青年団は「高原山の日」というものがあり、釈迦ヶ岳まで一緒に登りました。山頂から船生や玉生を見て、「小さな町だなあ」と感じた思い出があります。小学校に向かうときはいつも「高原山」を眺めていました。家の近くの富士山の山頂からも高原山が良く見えます。塩原の小学校で教鞭もとったが、塩原からより、やはり南側（矢板・塩谷）からみる高原山は素晴らしい。小学校の授業で高原山学校登山やスキー教室も企画し、ご父母や生徒らとはいまでもおつきあいをしています。やはり子供たちに「高原山」「自然」の感性を持たせてあげたい。退職後は故和気辰夫さんからの写真サークル「あそぼ」へのお誘いもあり、高原山や風景の写真をたくさん撮りました。1市3町で行った高原山山開きでは、故和気辰夫さんの体調不良で、代役として釈迦ヶ岳山頂にて万歳三唱を行った思い出もあります。ふるさと高原山を愛する集いで一番の思い出は、第1回目の時に塩谷中学校の生徒が発表してくれたことです。うれしく思いました。広域で自然を守り、塩谷町のいいところを見つけ、子孫に伝え、1人でも多く住み続けてほしいと願います』と述べられました。

「手のあげ方で成績がわかる」など小学校の先生らしく、始終なごやかな雰囲気でお話いただきました。今後も当会顧問として叱咤激励をよろしくお願いいたします。



閉会あいさつ

閉会あいさつはこれまで谷畑方夫副会長に担っていただきましたが、今回は見形和久会長から「谷畑方夫副会長には塩谷町のトップランナーとして活躍されてこられました。後任は青木修司委員となります。谷畑方夫副会長には今後ともいろいろな立場でご指導をいただきたい」と述べられました。

苗木配布

閉会后、実行委員により緑化推進のための苗木配布が行われました。今回はアジサイとハナモモでした。高原山麓に緑化推進運動が広がることを祈念いたします。

皆様の御協力を賜り、第7回ふるさと高原山を愛する集いが無事に開催できました。このような参加者等との意見交換会形式は初めての開催でしたが、今後の活動を模索するうえで大変貴重な機会となりました。参加者の皆様に感謝いたします。

今回のご意見等を参考にさせていただき、来年度の活動を検討していきたいと思っておりますので、今後とも皆様のご協力とご参加をどうぞよろしくお願い申し上げます。



(備考)

・ふるさと高原山を愛する集い実行委員参加者

見形和久会長、谷畑方夫副会長、水野雅章、和気芳道、青木修司、和気仲男、宇賀神一雄、小野崎保男、手塚一信、倭文廣、井澤晴雄、小川正己、斎藤民枝、中山信子、杉本宏之

市川貴大（事務局長）

・当日ボランティア

杉山太郎、栗田春奈、西川智善史、市川ファミリー

(写真は和気仲男さん、市川貴大撮影)

(この報告については雑誌しもつけの心にて連載予定です)